



INGING MOTORSPORT

INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

# INGING NEWS PAPER 2016 VOL.07

**TAKEFREE**

獲得タイトルを維持!!  
Wタイトル  
不運に苦われるも



Race Report 決勝 2016年9月25日 スポーツランドSUGO  
Round.6 SPORTSLAND SUGO 9/25 Final

NEXT RACE Round.7 SUZUKA CIRCUIT 10/29-10/30

Support by cyber net  
株式会社 サイバーネット

# 激闘の予感!!

2台共にタイトル争いに残る最終戦!

Race Report 決勝 2016年9月25日 スポーツランドSUGO 25 Final Round

2016年の全日本スーパーフォーミュラ選手権第6戦は、青空が広がる日曜日の午後、スポーツランドSUGOで決勝レースが行われた。予選で力を発揮できず挽回を誓っていたP.MU./CERUMO-INGINGたが、マシントラブルやセーフティカーのタイミングに不利を蒙った。石浦宏明が16位といきなり結果に終わった。前日の予選では予想外の展開となかったMU/CERUMO-INGINGは、仕切り直しで迎えた決勝日は、午前9時30分からのフルコースで走行が始まった。レースに向かっては、ピット作業のミスによるエンジンストップや、コース外へのチャックなど、一通りのメニューをこなしながら周回を重ねる2位、夜半の雨でコース上にはどこかごく薄れている箇所も残っていたが、徐々に路面状況は回復していく。それでもタイヤも削られていた。最終的に国本がセイヨウの前半5位圏内に「1分47秒963をマーク」5番手に、石浦は前の12周目に記録した1分49秒217が自分ベストタイムとなり1番手となった。国本はどんどん強くなり、午後には気温が22℃、路面温度は34℃まで上昇。初夏のような暑気の中で、65周の決勝レースがスタートした。フォーミュラのレースでは抜きどころがないと言われるSU-GPは、スタートは勝負を決める重要なファクター。ここに紐を定めていた二人だが、10番手スタートの石浦はクラッシュにトラブルが発生し出遅れてしまう。国本も、動き出しこそ良かったものの、コーナーまでの車両状態で行き場をなくしボンネットを削った。レース序盤は集団の中でのなかのペースを上げられずだが、10周が終了したあたりから燃料補給のピットインが出来出した。11周目には石浦の前にいた2台がピットイン。これで自分の順位がクリアになった石浦はペースアップ。1分5秒半から前方と上位陣にかけを競らないタイムを刻んでいく。ここでペースを上げてからピット作業に向かう予定だったが、18周目にレポートオリエラのマシンがコースサイドでストップしてしまったことにより、11周目には石浦と6番手を行っていた国本の2人を同時に順位に呼び替わし、最終でピット作業を実行した。ところが、同じタイミングで隣のピットのチームもピット作業を実行。石浦はピットの作業エンドアーマンを止めるために大きめのステアリングを切らなければならぬ。そこでクラッチ操作を難しくして順位を下げてしましました。その後、後ろで待機していた国本も合わせてストップ時間を延ばしてしまう。2台は16番手、17番手でコースに復帰することになってしまった。石浦はまさに、コース復帰後もマシントラブルで見舞われ一時ストップ。ここで国本と順位を入れ替わり、国本16番手、石浦は17番手からレース後半を戦うことになった。思わずアグリで順位を下がった2台だが、前のマシンとのギャップも順位自分のペースで走行ができる状況になつたことでペースは上向くに、それまで1分5秒半位にどまっていた自己ベストタイムも、国本が3周目1分48秒94、石浦が4周目1分48秒60など、そろそろ1分5秒台で更新。更に国本は4周目でセイヨウ全て他のベストタイムを記録してみせた。しかし他車とのハーモニイernesは持つ込むことができず、2度目のピット作業に向かう1台が順位を下げたことにより国本15位、石浦16位でチェック。目標としていたタイトル獲得は叶わなかったが、依然としてリースランギングでは国本が2位、石浦は首位でタイトル獲得の権利を握っている。「最終戦まで台頭してタイトル争いに残る」というシーズン当初の目標は達成しており、現在距離大会でドライバーズチャンピオン、そして現在ランキングトップであるチームチャンピオンのダブルタイトル獲得を目指す。

## SPORTSLAND SUGO

立川 祐路 Team Manager

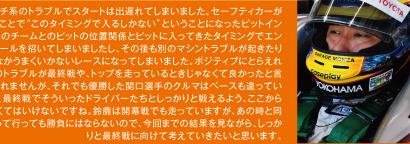
セイヨウの詳しきですが、石浦がエンジンストールしてしまった場所は給油ホースが届かない位置だったこともあり、大きなロスとなりてしまいました。それが全てですが、こういう苦しい時に何とか少しでもポイントを奪いたかったので、それができなかかったのは非常に残念です。

今日の閉口選手とインターチームはセーフティカーが入ったことで驚いてきたマージンが消えるという逆境を経験してしまった。あのよつた連鎖を、私たちの運営するセイヨウは全く違うサーキットですから今日と同じような展開にはならないと思います。他のチームに負けないよう最終戦も頑張ります。

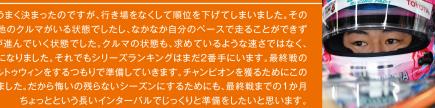
浜島 裕英 General Manager

セーフティカーのタイミングでもう少しいい順位につかれる可能性はありましたか? それができなかったのは非常に残念です。閉口選手の速さには全く驚いていました。彼らの運営するセイヨウは、次回もまたつなげなければいけません。まずは、石浦に順位を譲ります。とにかくチーム一丸で最終戦に向けて頑張っていかたいと思います。

H.Ishiiura 01 石浦 宏明



Y.Kunimoto 02 国本 雄資



スタートはうまく決まりたのですが、行き場をなくして順位を下げてしまいました。その後、後ろで待機していた国本も合わせてストップ時間を延ばしてしまう。2台は16番手、17番手でコースに復帰することになってしまった。石浦はまさに、コース復帰後もマシントラブルで見舞われ一時ストップ。ここで国本と順位を入れ替わり、国本16番手、石浦は17番手からレース後半を戦うことになった。思わずアグリで順位を下がった2台だが、前のマシンとのギャップも順位自分のペースで走行ができる状況になつたことでペースは上向くに、それまで1分5秒半位にどまっていた自己ベストタイムも、国本が3周目1分48秒94、石浦が4周目1分48秒60など、そろそろ1分5秒台で更新。更に国本は4周目でセイヨウ全て他のベストタイムを記録してみせた。しかし他車とのハーモニイernesは持つ込むことができず、2度目のピット作業に向かう1台が順位を下げたことにより国本15位、石浦16位でチェック。目標としていたタイトル獲得は叶わなかったが、依然としてリースランギングでは国本が2位、石浦は首位でタイトル獲得の権利を握っている。「最終戦まで台頭してタイトル争いに残る」というシーズン当初の目標は達成しており、現在距離大会でドライバーズチャンピオン、そして現在ランキングトップであるチームチャンピオンのダブルタイトル獲得を目指す。



[Racing Junky] 好評発売中!

《石浦選手》 S, M, L, XL 6,200円 [税別]

▶ レース会場「富士スピードウェイ、鈴鹿サーキット」  
▶ INGINGオフィシャルウェブショップ  
▶ EURO SPORTS ONLINE STORE